

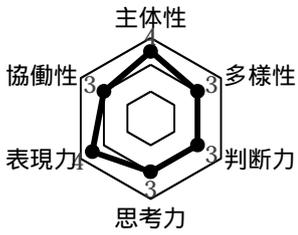
# 2024年度「プロジェクト研究1」シラバス

テーマカテゴリ	プロジェクト	プロジェクト名	教員	ページ
麒麟	1	鳥取の海や川の魅力や課題を地域の人に伝える	太田 太郎	1
	2	鳥取の街なかを調査し、映像にする	倉持 裕彌	2
	3	鳥取での再生可能エネルギーの活用を考えてみよう	田島 正喜	3
	4	まちの「居場所」を考える	張 漢賢	4
	5	OpenStreetMapによる鳥取ガイドの試み9ー大学周辺を主にー	中治 弘行	5
	6	考現学～観察を通して社会を読み解く～	山口 創	6
	7	ファミリー企業が短命であるのは本当？	兪 成華	7
	8	「 王国、鳥取」を構想する	吉永 郁生	8
	9	まちのなかの国際化を調べよう	連 宜萍	9
SDGs	10	ローカル鉄道から考える地域交通	石川 真澄	10
	11	春夏の自然探索:生物の多様性を調べる	笠木 哲也	11
	12	鳥取ならではの防災ツーリズムを企画しよう	角野 貴信	12
	13	私たちのくらしとごみ	金 相烈	13
	14	福祉とSDGsとの関連を考えてみよう！	佐藤 彩子	14
	15	大学生の自由研究	高井 亨	15
	16	学内の社会的資源を訪問し、学生生活のQOLを高める	藤田 恵津子	16
	17	未来社会をデザインする	堀 磨伊也	17
	18	トイレから、暮らし・社会を考える	山本 敦史	18
グローバル	19	民主主義を考える	相川 泰	19
	20	「レイシズム」を読む	荒田 鉄二	20
	21	Think Globally,Act Tottori	加藤 禎久	21
	22	いろいろな「モノ」や「コト」の歴史について調べよう	谷口 謙次	22
	23	南極を知ろう	徳田 悠希	23
	24	英語を使って楽しもう	徳山 瑞文	24
	25	「日本人は英語が苦手」を科学する	中村 弘子	25
	26	鳥取でグローバル社会を考える	柚洞 一央	26
	27	ニュージーランドの算数教科書を読む	吉田 聡	27
一般	28	鳥取の特産食材レシピ開発	磯野 誠	28
	29	Ruby言語でプログラミングを始めよう！	市丸 夏樹	29
	30	歴史上の出来事や伝承・伝説・行事の「意味」を解釈する	川崎 紘宗	30
	31	ちゃんと調べてみる	久保 奨	31
	32	を科学する	染谷 治志	32
	33	帰ってきた こちらTUES TV！！	竹内 由佳	33
	34	テニスの科学	戸苅 丈仁	34
	35	あなたのまちはどんなまちか？	西村 教子	35
	36	鳥取県のお土産として何をお勧めしますか？	山口 和宏	36

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	太田太郎								
授業の概要	<p><b>キーワード： 水域環境，水産業，地域貢献</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 鳥取の海や川の魅力や課題を地域の人に伝える</b></p> <p>&lt;概要&gt; 海や川などの水域には多様な生物が生息し、漁業、レジャーなどを通じ多くの人が関わりを持って生活をしています。このプロジェクト研究では、フィールドワークを通じ鳥取の水域に関する「環境の多様性」「生物の多様性」「文化や産業の多様性」を学び、その魅力や現在抱えている問題点について考えます。さらに学んだ成果を地元の展示施設の方々と相談しながら、展示物やイベント等を通して地域の人へ伝える事を目標とします。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、学生同士さらには地域の方々と協働しながら行動することを重視します。また、学生が主体的に立案した計画に基づき活動し、最終的には課題解決に必要な高い判断力や思考力を身につけることを目指します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス・自己紹介</li> <li>地元の展示施設の訪問（見学・方向性の協議）</li> <li>班分け，課題の抽出，活動計画の検討</li> <li>調査活動の準備</li> <li>調査活動（班別）</li> <li>調査活動（班別）</li> <li>調査活動（班別）</li> <li>調査活動（班別）</li> <li>中間報告</li> <li>イベント準備（班別）</li> <li>イベント準備（班別）</li> <li>地元の展示施設（鳥取賀露かっこ館）でのイベント 6月下旬の土日を想定</li> <li>発表準備</li> <li>発表練習</li> <li>発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	研究への取り組みを総合的に判断し評価								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	インターネットや書籍による情報収集、講義時間外の調査活動についても、各自積極的に取り組むこと。また、 <u>学外への視察や調査活動は土日を利用することが想定される。</u>								
履修上の注意事項	<u>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u>								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> 特になし</p> <p><b>参考書：</b> 特になし</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	麒麟		
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	倉持裕彌									
授業の概要	<p><b>キーワード： 中心市街地、フィールドワーク、映像制作</b></p> <p>&lt;テーマ&gt; 鳥取の街なかを調査し、映像にする</p> <p>&lt;概要&gt; 鳥取市の中心市街地について、課題や魅力を調査し、画像や映像を用いたショートムービーを作成する。グループごとにテーマ設定・ストーリーの構成・素材の撮影・編集作業等を行う。</p> <p>単に映像作品を作るのではなく、文献調査や現地調査によって、中心市街地の特徴や課題、魅力やその背景について学習しながら、作品づくりを進めていく。なお、通行人や店主に対するインタビュー、飲食店の体験レポートは原則禁止する。</p>									
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、フィールドにおける自主的なグループ活動が必要です。それらを通して、協働性を持ちつつ主体的に行動できるようになることを目指します。また映像の企画制作を通して思考力も高めていきます。</p>									
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. グループ分け、街歩き事前学習</li> <li>3. 街歩き</li> <li>4. 街歩き報告、テーマ設定、工程表作成</li> <li>5. 仮作品（5分程度）の作成・編集</li> <li>6. 仮作品の上映＋調査設計</li> <li>7. 調査</li> <li>8. 調査（同時に映像収集）</li> <li>9. 調査（同時に映像収集）</li> <li>10. 作品の編集作業</li> <li>11. 作品の編集作業</li> <li>12. プレゼンテーション 1 回目</li> <li>13. 作品の編集作業</li> <li>14. プレゼンテーション 2 回目</li> <li>15. 発表会</li> </ol>									
	教員による計画・方針・意向を重視					学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視					学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容					2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	<p>グループ活動への参加状況、調査および映像作成への協力・貢献等を総合的に評価する。それぞれ目安は 50%とするが、メンバー構成などに応じて柔軟に設定する。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>									各回、または複数回ごとの成果を重視
講義外での学習	グループによっては講義外の時間に街歩き等の活動をすることもある（グループ内の話し合いで決定する。）									
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>									
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成					他にも何らかの成果物を作成				
	学外フィールドに出る					学内で活動				
教材	<p>教科書： 不要</p> <p>参考書： 適宜紹介する</p> <p>時間割通りの実施</p>									他の曜日の集合あり

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	田島 正喜								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 再生可能エネルギー、地産地消、地球温暖化対策</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 鳥取での再生可能エネルギーの活用を考えてみよう</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 本プロジェクト研究では、自分が住む地域(鳥取)での再生可能エネルギーの活用を考える事で、その利点と課題を分析、調査してもらいます。グループ毎に調査活動を協働して行います。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、グループ活動において他者と協働しながら調査活動を実施でき、最終的にはその成果をPowerpointを用いて発表できる能力を身につける事を目標とします。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス、自己紹介</li> <li>環境とエネルギーについて(講義)</li> <li>再生可能エネルギーとは?(講義)</li> <li>近年の再生可能エネルギー推進政策の状況(講義)</li> <li>班分け(再生可能エネルギー毎)調査活動計画作成(調査活動には学外視察含む。)</li> <li>太陽光発電現場視察</li> <li>風力発電現場視察</li> <li>中間発表(質疑応答練習)</li> <li>追加調査活動(班別)</li> <li>バイオマス発電現場視察</li> <li>水力発電他現場視察</li> <li>発表資料作成</li> <li>事前発表練習(プレゼンテーション訓練、質疑応答練習)</li> <li>発表資料修正(13.の結果をもとに)</li> <li>発表会</li> </ol> <p>現場視察は班ごとに行うが、視察先の事情で実施回、回数を調整する。 発表練習等はPowerpointを用る。</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	中間発表、プレゼンテーション訓練、質疑応答練習の機会を通じて総合的に評価する。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	グループ毎に調査結果を取りまとめるための打ち合わせが必要です。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> なし Powerpoint 資料を提供する。</p> <p><b>参考書：</b> 授業の中で適宜紹介します。</p>								

科目名	プロジェクト研究1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	張漢賢								
授業の概要	<b>キーワード： サード・プレイス、居場所、生活環境</b> <b>&lt;テーマ&gt; まちの「居場所」を考える</b> <b>&lt;概要&gt;</b> 「サード・プレイス (third place)」という概念がある。それは、日常生活に最も長く居る「自宅」(1st place)、「職場」(2nd place)以外の「第三の場所」を指す(磯村 1975、Oldenburg 1989)。このような「居場所」は様々な人やニーズに対応し、色々な形で存在している。本研究では、まずこの「居場所」の多様なあり方を文献で概観する。まちなかやまわりの生活環境にある様々な「居場所」を探り、ハード(空間)・ソフト(利用実態・運営など)に拘らず、その本質を多角的に考察する。								
	到達目標	プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、学習への導入と動機付けを行い、自分が考えていることを他人に伝える能力を求める。情報を収集し、調査する方法、プレゼンテーションなど、計画して実行する能力を高め、スパイラル的にスキルアップする最初のステップとする。							
授業計画	1回目 インTRODクシヨN 2回目 文献学習 3回目 文献学習 4回目 研究テーマを考える 5回目 研究テーマを考える 6回目 研究計画を立て、調査を準備する 7回目 フィールド調査と報告 8回目 同上 9回目 同上 10回目 同上 11回目 同上 12回目 同上 13回目 研究成果まとめ 14回目 発表リハーサル 15回目 成果発表								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
	<b>評価方法</b> 学習の態度、グループに対する貢献、各段階の達成度、研究成果で評価する。 最終成果物の完成を重視 各回、または複数回ごとの成果を重視								
講義外での学習	まちの「居場所」は色々なかたちで存在している。同じ場所であっても人によって求め方が異なり、存在意義が異なる。何故それが「居場所」・「サード・プレイス」になり得るかを考えてみよう。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<b>教科書：</b> なし <b>参考書：</b> 日本建築学会編、「まちの居場所 まちの居場所を見つける/つくる」、東洋書店、2010。他								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	中治弘行								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> オープンデータ、GPS、OpenStreetMap</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> OpenStreetMap による鳥取ガイドの試み 9 - 大学周辺を主に -</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> GPS・GIS を活用する上で重要となる地図データの自由な利用を目的とする OpenStreetMap(OSM) プロジェクトを理解し、大学周辺など鳥取市内の地図データ作成手法を身に付け、ガイドマップの作成を目指す。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、特に主体性と協働性の発揮、向上を期待します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・グループ分けなど</li> <li>2. OSM の概要や大学周辺に不足している地図情報を把握する</li> <li>3. OSM への地図情報登録方法を学ぶ</li> <li>4. 調査範囲や調査対象を決めて OSM への地図情報登録や更新を進める</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 紹介・案内方法の検討に必要な情報を精査する</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 発表準備</li> <li>14. 同上</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
評価方法	教員による計画・方針・意向を重視				学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視				学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容				2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	<p>取り組み状況(60%)と成果物(40%)により評価する。出席の加点はしないが、欠席は減点材料になる。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p> <p>各回、または複数回ごとの成果を重視</p>								
講義外での学習	<p>地図の作成には町歩きが必須となり、時にはその様子を不審に思われる事態も想定されるので、学外での活動に当たっては特に責任感を保ち、単独行動を避けること。</p>								
履修上の注意事項	<p><b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b></p> <p>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</p> <p>他にも何らかの成果物を作成</p> <p>学外フィールドに出る</p> <p>学内で活動</p> <p>時間割通りの実施</p> <p>他の曜日の集合あり</p>								
教材	<p><b>教科書：</b> 特に指定しない</p> <p><b>参考書：</b> 特に指定しないが、ノート PC を毎回持参すること。GPS 機能を持ったスマートフォンなどを持っているとよい。</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	山口 創								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 考現学、フィールド調査（観察）</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 考現学～観察を通して社会を読み解く～</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 考現学とは、昭和初期に今和次郎らが提唱した学問で、一見すると取るに足らないような人々の行動、物事などの観察、データ収集を通して世俗、風俗の考察を試みるものです。今らは、街ゆく人々の服装、女性の髪型、露天商の人寄せ方法などの調査から、昭和初期の東京の生活や風俗を描き出しました。本プロジェクト研究では、実際に人々や物事の観察、データ収集に取り組み、人々の暮らしや鳥取という土地について考えてみたいと思います。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1では、テーマ設定、調査方法の決定、フィールド調査、結果のとりまとめ、考察という社会調査の基礎的なプロセスを経験してもらいます。学生同士のディスカッションを重視し、特に協働性や主体性を身につけることを目標とします。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 予備調査、グループ分け</li> <li>3. テーマ設定</li> <li>4. テーマ設定</li> <li>5. 調査方法の検討</li> <li>6. 調査方法の検討</li> <li>7. フィールド調査</li> <li>8. フィールド調査</li> <li>9. フィールド調査</li> <li>10. 結果のとりまとめ、考察</li> <li>11. 結果のとりまとめ、考察</li> <li>12. 結果のとりまとめ、考察</li> <li>13. 発表準備</li> <li>14. 発表準備</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視					学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視					学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容					2人以上のグループ活動が必須			
評価方法	最終成果物 50%、授業の取組状況 50%で評価								
	最終成果物の完成を重視					各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学習									
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成					他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る					学内で活動			
	時間割通りの実施					他の曜日の集合あり			
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b> 考現学入門、路上観察学入門</p>								

科目名	プロジェクト研究1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	俞 成華								
授業の概要	<b>キーワード： ファミリー企業、事業継承、後継者の育成</b> <b>&lt;テーマ&gt; ファミリー企業が短命であるのは本当？</b> <b>&lt;概要&gt;</b> 日本の企業のほとんどは中小企業であり、その大半をファミリー企業が占めることは広く知られている。地方地域に根差すファミリー企業の存在が地域経済の発展を牽引し、地域活性化において重要な役割を果たしている。しかし、ファミリー企業は、経営、所有、家族でさまざまな潜在的な課題を抱えつつ、経営活動が推進されていくが、特に事業承継のタイミングで多くの問題が発生している。本プロジェクトでは、鳥取におけるファミリー企業は、経営、事業継承、後継者の育成における課題を解決しながら、いかに新たな成長戦略を描き、企業が永続できる仕組みも合わせて整備していくかを考え、ファミリー企業の意義を明らかにすることを目指す。								
	到達目標	プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とする。 1. 筋道を立てて考える「思考力」 2. 複数の異なる考えから結論を得る「判断力」 3. 自らの考え方を他人に伝える「表現力」 4. 自分の意見を作る「主体性」 5. 異なる立場や意見を適確に理解する「多様性」 6. 様々な人とともに目的を達成しようとする「協働性」							
授業計画	1. 授業概要の説明 2～3. 文献学習 4～5. 研究テーマ・調査対象を考える、チーム分け・調査計画 6～8. 調査の実施（企業訪問）、データ収集と分析 9. 中間報告 10～12. 調査の継続（企業訪問）、データ収集と分析 13～14. プレゼンテーションの準備 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	授業態度、発言、チームワーク、発表内容、自己の内省等を総合的に評価する。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	・参考書や資料を読む。 ・次回の作業を考えて、事前にデータ収集など準備をする。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<b>教科書：</b> 特に指定しない。 <b>参考書：</b> 授業中に随時紹介する。								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	吉永郁生								
授業の概要	<p><b>キーワード： 地方創生、麒麟地域</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 「〇〇王国、鳥取」を構想する</b></p> <p>&lt;概要&gt; 鳥取を含む山陰地方の社会や経済、文化は、鳥取の自然環境や歴史と密接に関わっています。鳥取県の地方創生を考えるうえで、鳥取市や兵庫県北部を含めた町村群から成る「麒麟地域」で、今後目指すべきスローガン「〇〇王国」を構想します。そのためにこの地域の独自性、他地域との比較優位・劣位を探るところから始めます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、学生各々が自ら鳥取に望む未来をイメージすることが重要です。そのために、公開データや信頼できる情報サイト（書籍を含む）にアクセスし、正確にその情報を読み取る力が大切です。活動は個人活動とグループ活動の両方がありますが、特に主体性と思考力を重視します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1. ガイダンスと背景の説明</li> <li>2. 個人研究計画 1_研究計画発表</li> <li>3. 個人発表</li> <li>4. 個人発表</li> <li>5. 個人発表</li> <li>6. 個人発表</li> <li>7. グループ研究計画 1</li> <li>8. グループ研究計画 2_研究計画発表</li> <li>9. 研究実施</li> <li>10. 研究実施</li> <li>11. 研究実施_中間発表</li> <li>12. 研究実施</li> <li>13. 研究実施</li> <li>14. 発表準備</li> <li>15. 予備日</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	個人の発表内容とグループ研究の発表内容、およびそれに関連した討論で評価します。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	場合によっては、講義外、学外での活動があります。また、同一日に4限・5限を通して実施することもあります。事前に皆さんと相談します。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b></p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	連 宜萍								
授業の概要	<p><b>キーワード：国際化、異文化、国際交流</b></p> <p>&lt;テーマ&gt; まちなかの国際化を調べよう</p> <p>&lt;概要&gt; 経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)は国境を越えて移動しています。我々は海外に行かなくても、常に外国の商品を買って使って、外国の情報を得て、外国語の案内表示を見て、外国人と触れ合うチャンスがあります。本プロジェクトでは、まず町中や周りの国際化の現状を見て調べます。今後ますます国際化が進むなかで、日本はどう変わるか、どう対応すべきかなどを調査し明らかにします。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトではまちなかの国際化についての現状を考察したうえで、ブレインストーミングとKJ法を用いて自ら研究課題を設定します。まちなかの国際化の問題は何かを発見するために、グループメンバーと議論することを通じて情報収集、調査計画、実施方法等を学習します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. ブレインストーミング、研究テーマを決め、チームを分けます</li> <li>3. 国際化の現状を把握します</li> <li>4. 調査の質問票を作成し、調査計画を立てます</li> <li>5. フィールド調査の準備・計画について報告します</li> <li>6. 調査の実施</li> <li>7. 調査結果の報告、ディスカッション</li> <li>8. 調査の実施</li> <li>9. 調査結果の報告、ディスカッション</li> <li>10. 調査の実施</li> <li>11. 調査結果の報告、ディスカッション</li> <li>12. 研究成果まとめ</li> <li>13. 研究成果まとめ</li> <li>14. 成果物のアップロード、発表リハーサル</li> <li>15. 公開発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	グループディスカッションへの参加、プロジェクトへの貢献(とりわけ他のグループへの貢献的なコメント)、成果物等を総合的に評価します。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	講義時間は主に発表や検討に使うため、グループ議論やフィールド調査、パワーポイントの作成は講義時間外で行うこと。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b> 授業中に必要に応じて指定する。</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGs																
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教員名	石川 真澄																							
授業の概要	<p><b>キーワード： 住み続けられるまちづくり、持続可能な交通、地域交通</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; ローカル鉄道から考える地域交通</b></p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> SDGsの目標の一つ、「11 住み続けられるまちづくりを」のターゲットの一つに「2030年までに、女性や子ども、障害のある人、お年寄りなど、弱い立場にある人びとが必要としていることを特によく考え、公共の交通手段を広げるなどして、すべての人が、安い値段で、安全に、持続可能な交通手段を使えるようにする。」というものがあります。</p> <p>しかし、現代の日本では都市部を除いて公共交通は危機的な状況が続いており、近年はJRを中心にローカル鉄道の経営難に注目が集まりました。継続が困難とされた路線には、山陰のものも含まれます。私達に身近なSDGsの問題として、ローカル鉄道とそれを取り巻く地域交通を、今後どのようにすべきか、具体的な方策を考えましょう。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>プロジェクト研究1の受講者は、同時に実施するプロジェクト研究3の受講者とともに、協力してグループ活動を遂行できることを目標とします。</p>																							
授業計画	<p>本プロジェクトは下記の通り、教員の計画だけでなく、受講者の自発的な計画を重視します。以下の「授業計画」は大まかな展望を示すもので、内容やスケジュールは受講者の計画により変化します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション テーマとその背景について</li> <li>2. 山陰のローカル鉄道の現状を調べる(1)</li> <li>3. 山陰のローカル鉄道の現状を調べる(2)</li> <li>4. 山陰のローカル鉄道の現状を調べる(3)</li> <li>5. 地方と公共交通の将来像を考える(1)</li> <li>6. 地方と公共交通の将来像を考える(2)</li> <li>7. 地方と公共交通の将来像を考える(3)</li> <li>8. 山陰のローカル鉄道の維持または代替的な公共交通の具体的方策を考える(1)</li> <li>9. 山陰のローカル鉄道の維持または代替的な公共交通の具体的方策を考える(2)</li> <li>10. 山陰のローカル鉄道の維持または代替的な公共交通の具体的方策を考える(3)</li> <li>11. 山陰のローカル鉄道の維持または代替的な公共交通の具体的方策を考える(4)</li> <li>12. 成果物のとりまとめ(1)</li> <li>13. 成果物のとりまとめ(2)</li> <li>14. 発表会準備</li> <li>15. 発表会</li> </ol> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>教員による計画・方針・意向を重視</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td> </tr> <tr> <td>教員と学生の双方向性を重視</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>学生同士の双方向性を重視</td> </tr> <tr> <td>個人による単独活動を許容</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2人以上のグループ活動が必須</td> </tr> </table>									教員による計画・方針・意向を重視				学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視				学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容				2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視				学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視				学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容				2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>グループとしての活動実態、その過程での各個人の貢献度や過程における思考や議論の深まりを総合的に評価します。グループ活動を行いますので、通常の講義以上に出席して活動に参加することは重要です。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>最終成果物の完成を重視</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td> </tr> </table>									最終成果物の完成を重視				各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視				各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学習	プロジェクトの過程で時間外の学習や調査が必要となります。																							
履修上の注意事項	<p><b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b></p> <p>グループでの活動が多くなりますので、出席については上の全学共通基準より重視します。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>他にも何らかの成果物を作成</td> </tr> <tr> <td>学外フィールドに出る</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>学内で活動</td> </tr> <tr> <td>時間割通りの実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>他の曜日の集合あり</td> </tr> </table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成				他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る				学内で活動	時間割通りの実施				他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成				他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る				学内で活動																				
時間割通りの実施				他の曜日の集合あり																				
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b></p>																							

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGS	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	笠木哲也								
授業の概要	<p><b>キーワード：植物、昆虫、多様性</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 春夏の自然探索：生物の多様性を調べる</b></p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 環境大付近で生物の多様性を調べる。対象は植物または昆虫とする。春はさまざまな植物が開花する。その花にどのような昆虫が集まるのか調べる。異なる環境を調査し、生物多様性がどのように異なるのか調べる。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、身近な環境をフィールドとし、どのような植物が生育しているのか、またどのような昆虫が花に集まるのか調べ、標本を作成する。以上の活動を通して環境と生物多様性の関係を理解する。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと調査、同定、標本作成作業の練習</li> <li>2. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>3. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>4. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>5. 中間報告1回目</li> <li>6. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>7. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>8. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>9. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>10. 中間報告2回目</li> <li>11. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>12. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>13. フィールド調査と同定作業、標本作成作業</li> <li>14. データ整理と発表練習</li> <li>15. 発表会</li> </ol> <p>(天候によってスケジュールを変更することがある。)</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視						学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視						学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容						2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	<p>取り組み姿勢、各回の活動報告レポート、出席状況</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>								
講義外での学習									
履修上の注意事項	<p><b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b></p> <p>野外で動きやすい服装、靴を準備すること。飲み物も忘れずに。</p>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成						他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る						学内で活動		
	時間割通りの実施						他の曜日の集合あり		
教材	<p><b>教科書：なし</b></p> <p><b>参考書：授業時間内に紹介する</b></p>								

科目名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	角野 貴信								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 持続可能性，自然災害，観光</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 鳥取ならではの防災ツーリズムを企画しよう</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 日本は自然災害が多く、日常的な防災の取り組みが地域の持続可能性に直結する。しかしながら防災教育は、訓練として行うよりも観光の一環として行う方が楽しく理解できるだけでなく、地域の自然環境や社会についての理解も深まると考えられる。鳥取において実現可能な防災ツーリズムはどのようなものかを議論し、提案する。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本プロジェクトでは、主体的にメンバーと協働しつつ課題についての理解を深め、その内容を発信できる能力を養う。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの概要説明</li> <li>課題・班の設定と班内での役割分担の決定</li> <li>国内外の防災ツーリズムに関する情報収集 1</li> <li>国内外の防災ツーリズムに関する情報収集 2</li> <li>国内外の防災ツーリズムに関する情報収集 3</li> <li>鳥取県における自然災害に関する情報収集 1</li> <li>鳥取県における自然災害に関する情報収集 2</li> <li>鳥取県における防災体制に関する情報収集 1</li> <li>鳥取県における防災体制に関する情報収集 2</li> <li>鳥取県における防災ツーリズムの企画 1</li> <li>鳥取県における防災ツーリズムの企画 2</li> <li>鳥取県における防災ツーリズムの企画 3</li> <li>企画に関する議論とまとめ</li> <li>プレゼンテーションの準備</li> <li>プロジェクト研究発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	プロジェクトへの貢献度を総合的に評価する。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	授業中に出示された課題を班内で分担してまとめ、レジュメや発表スライドを作成する。授業中に分からなかった語等があった場合は、関連する書籍を読む等の自習を行う。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> なし</p> <p><b>参考書：</b> 菊地・有馬編『自然ツーリズム学』朝倉書店 (2015)</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	金 相烈								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> ごみ調査、一人暮らし、排出抑制</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 私たちの暮らしとごみ</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 本プロジェクト研究では、私たちの暮らしとごみがいかに密接に関連しているかを理解するために、わたしたちの毎日の暮らしから、どのようなごみが、どれくらい出ているか、また一人暮らしのごみの特徴を調べ、さらにごみ減量のための改善策を工夫し、検証する。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、自らやるべきことを見つけて主体的に取り組むこと、また、他の学生と協働しながら進めていくことを重視します。最終的には課題を明らかにし、筋道を立てて体系的に考える力を身につけることを目指します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス・自己紹介</li> <li>各地元におけるごみ処理について調査する</li> <li>前週の調査について発表する</li> <li>自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 1</li> <li>自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 2</li> <li>自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 3</li> <li>自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 4</li> <li>1 か月間の結果をまとめ、発表する（中間発表）</li> <li>ごみ削減の対策案を発表する （班分け：一人暮らしのごみ特徴を調査する班、ごみ削減の対策と検証を行う班）</li> <li>班ごとに調査 1</li> <li>班ごとに調査 2</li> <li>班ごとに調査 3</li> <li>班ごとに調査 4</li> <li>これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備（発表練習）</li> <li>発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	チーム力（2割）、コミュニケーション（2割）、プレゼン力（2割）、寄与度（1割）、発表成果物（3割）								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習									
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b></p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	佐藤 彩子								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 福祉、福祉的課題、SDGs</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 福祉とSDGsとの関連を考えてみよう！</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 我が国では世界に例を見ないスピードで高齢化が進展し、それに伴い後期高齢者や認知症患者が増加している。これを受けて、2000年には介護保険制度が導入された。また2013年には障がい者差別解消法が制定され、高齢者や障がい者を対象とした法整備が進んできた。このような中、2011年3月には東日本大震災が、2024年1月には能登半島地震が発生し、高齢者や障がい者は自力での避難が困難であるがゆえに、逃げ遅れたり命を落としてしまった者も存在した。本プロジェクトでは、誰もが抱える身近な福祉的課題をSDGsのゴールやターゲット等と関連させながら、それを解決するための条件や方法を提案することを目的とする。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、輪読や映画鑑賞等を通して、物事を深く考える力、自らの考えを他者に伝える高いコミュニケーション力を身につけることを目標とします。</p>								
授業計画	<p>原則として、下記の授業計画を進めるが、受講生の理解度等に応じて柔軟に対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション(教員・受講生の自己紹介、本プロジェクト研究の趣旨説明等)</li> <li>福祉×SDGsに関する新聞記事紹介(受講生による発表)</li> <li>福祉の現状と課題(ゲストスピーカー(鳥取県内企業経営者)による講義)</li> <li>福祉的課題とその解決に関する取り組み事例の検討(受講生による発表)</li> <li>福祉的課題とその解決に関する取り組み事例の検討(受講生による発表)</li> <li>福祉的課題とその解決に関する取り組み事例の検討(受講生による発表)</li> <li>フィールドワーク：駅、商店街、公共施設等のバリアフリー化の検証</li> <li>福祉を題材とした漫画読み+漫画を用いたグループワーク</li> <li>福祉を題材とした映画鑑賞</li> <li>福祉を題材とした映画鑑賞 + 映画を用いたグループワーク</li> <li>グループ発表</li> <li>発表会準備</li> <li>発表会準備</li> <li>発表会準備</li> <li>発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>授業に対する参加度、発表とその成果物、成果発表会でのプレゼンテーション内容等を総合的に評価します。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p> <p>各回、または複数回ごとの成果を重視</p>								
講義外での学習	日ごろから福祉に興味を持ち、積極的に情報収集を行うこと。また、SDGsの基本的事項について理解を深めること。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b> 日本福祉のまちづくり学会編(2013)『福祉のまちづくりの検証 その現状と明日への提案』彰国社。その他、適宜、紹介します。</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	高井亨								
授業の概要	<b>キーワード： 自由の意味、研究、SDGs と SDGs ではないもの</b> <テーマ> 大学生の自由研究 <概要> 自らテーマを設定し、研究を遂行します。テーマは自由に選んで構いませんが、ひとつだけ制約があります。各自が選んだテーマが、どのように SDGs と関係するのか(しないのか)、つまり SDGs という視点から考察をおこなってください。みなさんが関心のあるテーマと SDGs それぞれについて深く理解することが求められます。								
	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、どの能力もまんべんなく必要です。しいていえば「主体性」と「思考力」を身につけることを目標とします。								
到達目標	1： イントロダクション（自己紹介など） 2： 研究テーマの探索 3： 各自の研究テーマの発表 4： 研究テーマの練り直し 5： 先行研究の調査 6： 先行研究の調査 7： 調査・分析 8： 調査・分析 9： 中間発表会 10： 調査・分析 11： 調査・分析 12： 成果物づくり 13： 成果物づくり 14： プロ研内での発表会 15： プロ研発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	意欲・態度・成果をもとに評価する。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	意義のある成果を得るためには、講義時間外にも研究をすすめることが必須です。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<b>教科書：</b> 適宜紹介する。 <b>参考書：</b> 適宜紹介する。								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	藤田恵津子								
授業の概要	<b>キーワード： 学生生活、社会的資源、Quality of Life</b> <b>&lt;テーマ&gt;</b> 学内の社会的資源を訪問し、学生生活の QOL を高める。 <b>&lt;概要&gt;</b> 本プロジェクト研究では、大学での学習への導入と動機付けを行い、チームで課題に取り組む。情報を収集し、調査解析する方法や討論の仕方、レポートのまとめ方、プレゼンテーション技法など大学で学問を学ぶ上で必要とされる基本的姿勢、スキルの修得を目的とし、スパイラル的にスキルアップする基本のステップとする。健康で実り多い学生生活を送るために、学内の社会的資源であるさまざまな部署を訪問し、当該の業務や目標、やりがい、課題などについて説明を受けるとともに、学生の自主性と社会性の育成をめざす。報告会では、学内の社会的資源の活用に関する発表を行う。								
	到達目標	プロジェクト研究 1~4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。プロジェクト研究 1 では、課題対象をよく理解することを重視する。そして、社会人としてのマナーを身につけ、学内の社会的資源を訪問する、当該部署の業務、目標、やりがい、課題を的確に把握し発信する、訪問を通して、自主性と社会性の成長をめざす。							
授業計画	1. オリエンテーション(研究の目的、方法、計画、報告)、班分け 2. 社会人としてのマナー学習(挨拶、自己紹介、電話対応)、次回の事前訪問準備 3. 各部署への事前訪問、次回訪問に向け担当グループによる事前学習 4. 訪問 保健室(体の健康) 5. 前回訪問の振り返りと次回訪問に向け担当グループによる事前学習 6. 訪問 学生相談室(心の健康) 7. 前回訪問の振り返りと次回訪問に向け担当グループによる事前学習 8. 訪問 総務課(社会人のお金と社会保障) 9. 前回訪問の振り返りと次回訪問に向け担当グループによる事前学習 10. 訪問 学務課就職支援(大学生生活の過ごし方) 11. 前回の振り返りと活動全般の振り返り 12. 報告会に向けた討議とプレゼンテーションの準備 13. 報告会に向けた討議とプレゼンテーションの準備 14. プレゼンテーションのリハーサルと相互評価 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	毎回のミニレポートの内容、学習・活動状況、発表等を総合的に評価する。 最終成果物の完成を重視 各回、または複数回ごとの成果を重視								
講義外での学習	講義前には、関連する文献やメディアを通して理解を深める。授業後は、ボランティアや実習、日常生活などの体験を通して考察を深めておく。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
教材	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
	<b>教科書：</b> なし(毎回、資料を配布する)。 <b>参考書：</b> 藤本・東編著 ワークショップ 大学生生活の心理学 ナカニシヤ出版 2009年								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	堀 磨伊也								
授業の概要	<p><b>キーワード： 未来社会、Society 5.0、シンギュラリティ</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 未来社会をデザインする</b></p> <p>&lt;概要&gt; &lt;概要&gt; 我が国が目指すべき未来社会として Society 5.0 が提唱されている。どのような社会が実現できるのかを予測し、それに向かうことは重要である。本プロジェクト研究では興味があるテーマに関して、未来社会を独自にデザインするとともに、そのデザインの根拠となる情報を収集・活用することで論理的に話を展開する演習を行う。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本プロジェクト研究 1 では、特に思考力（筋道を立てて考える力）を用いて未来社会を創造すること、グループ内で議論を重ねることにより多様な考え方を理解するとともに協調性を高めることを目標とする。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 過去に行われた未来予測の調査（個別）</li> <li>3. 過去に行われた未来予測についての調査結果の発表会（個別）</li> <li>4. グループ分け，テーマ決め</li> <li>5. テーマに関する歴史調査 1</li> <li>6. テーマに関する歴史調査 2</li> <li>7. テーマに関する未来社会の創造</li> <li>8. テーマに関する未来社会の創造結果の中間発表会</li> <li>9. 未来社会の予測の根拠となる資料収集 1</li> <li>10. 未来社会の予測の根拠となる資料収集 2</li> <li>11. 根拠に基づく未来社会の再デザイン 1</li> <li>12. 根拠に基づく未来社会の再デザイン 2</li> <li>13. 発表準備 1</li> <li>14. 発表準備 2</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>個別の貢献度(60%)、中間発表(10%)、最終発表(30%)で評価する。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p> <p>各回、または複数回ごとの成果を重視</p>								
講義外での学習	最新の科学技術の動向を日常的に注視する。								
履修上の注意事項	<p><b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b></p> <p>授業支援システムを介して報告提出を行う必要があるため、各自パソコンを持参すること。</p> <p>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</p> <p>他にも何らかの成果物を作成</p> <p>学外フィールドに出る</p> <p>学内で活動</p> <p>時間割通りの実施</p> <p>他の曜日の集合あり</p>								
教材	<p><b>教科書： 特になし</b></p> <p><b>参考書： 特になし</b></p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	山本 敦史								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> トイレの機能、安全で使いやすいトイレ、ジェンダーフリー</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> トイレから、暮らし・社会を考える</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 日本語版の SDGs では「トイレ」という用語がゴールの説明文に組み込まれている。本プロジェクトでは日々の暮らしで使うトイレについて、その機能、公共トイレ、災害時など現状について学ぶとともに、現代社会に求められるトイレ像について考える。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、トイレに関する調査・発表などをグループに分かれて実施します。それらを通じどの機能がどのような立場の人に配慮して用意されているのかに思いを巡らせるようになること、協調してグループ活動ができることを目標とします。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス トイレに求められるものとは</li> <li>2. 災害避難所のトイレを考える 簡易トイレ作成</li> <li>3. 大学のトイレの調査</li> <li>4. 企業の取り組みを学ぶ</li> <li>5.6. 施設見学</li> <li>7. 公共トイレの調査</li> <li>8. ジェンダーフリーと公共トイレ</li> <li>9. トイレの海外事情</li> <li>10. 大学の、公共のトイレはどうあるべきか</li> <li>11. 資料作成</li> <li>12. 発表練習 I</li> <li>13. 発表練習 II</li> <li>14. 発表練習 III</li> <li>15. 発表会</li> </ol> <p>スケジュールは進行により前後することがある。また、施設見学は一回で複数回分の授業とする。</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>成果物のほか、各回の参加姿勢を重視し評価する。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>								
講義外での学習	公共トイレの設備にも日常的に関心を持ち、なぜそうなっているかなどを考えること。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b> トイレの話をしよう：世界 65 億人が抱える大問題 ローズ・ジョージ著 NHK 出版 など</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	相川 泰								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 多数決、少数の尊重、決定権者と被影響者の異同</p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 民主主義を考える</b></p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、ミャンマーの軍事政権、中国の香港政策など「自由と民主主義を共有」する国・地域の人々からみて問題な状況が世界で多発しています。他方でそれらの国・地域でも長らく「民主主義の危機」が指摘されています。身边から諸外国、異時点間なども視野に入れ、民主主義について考えます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、「民主主義を考える」をテーマとして、各自が話題や論点を持ち寄り、それぞれについて掘り下げたうえで、本プロジェクトに参加していない人にも理解可能で有意義のように成果物をまとめ、発表します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>顔合わせ、趣旨説明、自己紹介、当初の計画案の提示と確定</li> <li>最初の議題「グループ活動のデメリット」「課外活動での民主的決定」</li> <li>2回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>3回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>4回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>5回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>6回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>7回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>8回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>9回目の担当者たちによって提起された問題をめぐる話し合い</li> <li>発表会とWeb成果物で扱う話題と発表の仕方についての話し合いと決定</li> <li>発表会に向けた準備作業とWeb成果物作成-1</li> <li>発表会に向けた準備作業とWeb成果物作成-2</li> <li>発表会予行演習</li> <li>発表会</li> </ol> <p>なお、各回の司会、記録等は2回目以降、持ち回りで担当する</p>								
評価方法	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	円滑な運営への協力姿勢 1割、話題提供 2割、話し合いへの参加姿勢 4割、発表会準備とWeb成果物作成の過程および完成度 3割の比重で評価								
講義外での学習	最終成果物の完成を重視								
講義外での学習	各回、または複数回ごとの成果を重視								
履修上の注意事項	<p><b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b></p>								
履修上の注意事項	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b></p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	グローバル				
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期			
教員名	荒田 鉄二											
授業の概要	<p>キーワード： 人種、偏見、無意識</p> <p>&lt;テーマ&gt; 「レイシズム」を読む</p> <p>&lt;概要&gt;  ルース・ベネディクト著の「レイシズム」(1942)を読み、レイシズム(人種差別)とは何かについて学びます。また、外国人労働者の受け入れや難民問題等に対する今日の対応の中に、隠されたレイシズムがないか考えます。</p>											
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、自ら学ぶ主体性と思考力を重視します。</p>											
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>全体説明</li> <li>人種差別の体験1(見たこと)</li> <li>人種差別の体験2(されたこと)</li> <li>人種差別に体験3(したこと)</li> <li>人種とは何か：現代社会におけるレイシズム</li> <li>人種とは何でないか</li> <li>人類は自らを分類する</li> <li>移民および混交について</li> <li>遺伝とは何か</li> <li>どの人種が最も優れているのだろうか</li> <li>レイシズムとは何か：レイシズムの自然史</li> <li>どうしたら人種差別をなくせるだろうか？</li> <li>発表会スライドの取りまとめ1</li> <li>発表会スライドの取りまとめ2</li> <li>発表会</li> </ol>											
評価方法	教員による計画・方針・意向を重視				学生の自発的な計画・方針・意向を重視							
	教員と学生の双方向性を重視				学生同士の双方向性を重視							
	個人による単独活動を許容				2人以上のグループ活動が必須							
評価方法	<p>議論への参加状況(30%)、グループ内での役割の履行状況(40%)、発表会レポート(30%)により評価します。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>									各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学習	毎回、事前に本の該当部分をよく読んで理解しておいてください。											
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>											
履修上の注意事項	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成				他にも何らかの成果物を作成							
	学外フィールドに出る				学内で活動							
	時間割通りの実施				他の曜日の集合あり							
教材	<p>教科書： ルース・ベネディクト、「レイシズム」, 講談社学術文庫(2020)</p> <p>参考書： なし</p>											

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	加藤 禎久								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 世界の中の日本、SDGs、DX</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> Think Globally, Act Tottori</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 「地球規模で考え、足元から行動せよ」という標語を知っていますか。このプロジェクト研究では、私たちが生活している鳥取でできることを考えます。前半は、教員が指定する他の国に関する調査をし、後半は大学付近のとある場所での、地球規模の課題の解決につながる取り組みの提案をグループごとに行います。また、共通してオンライン共同編集作業とプロっぽいデザインができる Canva の使い方を身につけます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、特に「考える」ことを重視する。良い提案するためには、事前の調査・分析が不可欠である。また、異なる考えを持つグループメンバーと協働して成果物を作り上げることも重要である。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス:テーマとプロ研の流れ(進め方)についての説明、注意事項、自己紹介</li> <li>前半グループ分け、担当国名発表、グループ内で自己紹介、調査テーマを話し合う</li> <li>調査テーマを教員と相談の上、決定</li> <li>リサーチ</li> <li>リサーチ</li> <li>リサーチ</li> <li>グループごとに中間発表会の準備</li> <li>中間発表会(クラス内のみ)</li> <li>後半テーマサイト見学、グループ分け発表、グループ内で自己紹介</li> <li>サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論</li> <li>サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論</li> <li>サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論</li> <li>グループごとに最終発表会の準備</li> <li>グループごとに最終発表会の準備、リハーサル</li> <li>最終発表会(公開)</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	中間発表(35%)、最終発表(35%)、グループメンバー間の相互評価(10%)、出席(授業内活動参加)点(20%)								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	2回の発表会の前には授業時間外でグループごとに集まり、追加調査をしたり発表の準備や練習をしたりする時間が必要になるので注意。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	ノートパソコンを持参すること。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
教材	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
	<p><b>教科書：</b> なし</p> <p><b>参考書：</b> 必要に応じて適宜示す。</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	谷口謙次								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 世界史、日本史、グローバル・ヒストリー</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> いろいろな「モノ」や「コト」の歴史について調べよう。</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 学生の皆さんには歴史というと教科書を思い浮かべるでしょう。しかし、実際は様々な物事、人物、出来事一つ一つに歴史があります。料理や食品、ファッションや装飾品、家具や日用品などの「生活」や、スポーツや音楽、アニメやゲームといった「娯楽・趣味」、車や電車、飛行機などの「乗り物」など、私たちの身の回りの「モノ」や「コト」にも歴史があるのです。こうした身近な「モノ」や「コト」の歴史を調べることで、過去や世界と私たちのつながりについて考えてみましょう。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、前半と後半の2つに分けて研究を進めていきます。前半では2冊のテキストをグループごとに分かれて読み、本の読み方や報告の仕方、議論の仕方などを学びます。後半ではグループでテーマを決めて調査を行い、発表会で報告を行います。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>ガイダンス</u>：自己紹介、プロ研で学ぶ内容の説明、グループ分け</li> <li>2. <u>本の読み方とまとめ方</u>：本の上手な読み方やまとめ方を学ぶ</li> <li>3. <u>本の読み方とまとめ方</u>、<u>レジメの書き方</u></li> <li>4. <u>鳥取県立図書館オリエンテーション</u>：本や雑誌などの探し方、本などの検索方法</li> <li>5. <u>図書レポート</u>：テキストを読んで報告をし、みんなで議論をする</li> <li>6. <u>図書レポート</u>：テキストを読んで報告をし、みんなで議論をする</li> <li>7. <u>グループ分け、調査のテーマ決め</u>：発表のためのテーマを決める</li> <li>8. <u>資料の集め方・まとめ方</u>：図書館やネットで資料を集める</li> <li>9. <u>資料の集め方・まとめ方</u>：集めた資料を整理して、必要な部分を探す</li> <li>10. <u>報告のまとめ方</u>：資料から見つけた内容を報告のためにまとめる</li> <li>11. <u>中間報告</u></li> <li>12. <u>報告準備、レジメの書き方</u>：報告のためのレジメの作り方</li> <li>13. <u>報告準備、報告の仕方</u>：発表会での報告の仕方</li> <li>14. <u>プレ発表会</u></li> <li>15. <u>発表会</u></li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>平常点 60 点（課題提出、グループ活動への参加など）、発表会 &amp; 最終レポート 40 点</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>								
講義外での学習	授業中に課題を出します。また、グループ活動では講義外に最低 1 回は集まって打ち合わせなどを行ってください。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b> 『チョコレートの世界史』『珈琲の世界史』</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	徳田悠希								
授業の概要	<b>キーワード：南極大陸、南極海、極域科学、</b> <テーマ> 南極を知ろう <概要> 地球環境における南極の重要性を理解するため、各自が設定したテーマに則して調査を行う。また、それらの成果をもとに、南極の環境問題解決のための提案を行う。								
	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクト 1 では、主体性・協働性・判断力の向上を目指します。								
到達目標									
授業計画	1. オリエンテーション（教員・班員の自己紹介、研究目的、研究方法について） 2. 南極の概要 3. 研究計画の立案 4. 研究計画の立案 5. 南極の環境に関する調査 6. 南極の環境に関する調査 7. 南極の環境に関する調査 8. 調査データ分析 9. 調査データ分析 10. 調査データ分析 11. 調査結果のまとめ 12. 調査結果についての議論 13. 発表会に向けたプレゼンテーションの作成 14. 発表会に向けたプレゼンテーションのリハーサル 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視						学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視						学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容						2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	活動状況、研究成果、発表内容、発表態度等を総合的に評価								
	最終成果物の完成を重視						各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学習	南極に関する知識を得るため、国立極地研究所のHPなどを閲覧する								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成						他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る						学内で活動		
	時間割通りの実施						他の曜日の集合あり		
教材	<b>教科書：</b> <b>参考書：</b>								

科目名	プロジェクト研究1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	徳山瑞文								
授業の概要	<p><b>キーワード： 使える英語 英語苦手意識 流暢さ第一</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 英語を使って楽しもう</b></p> <p>学生のグローバルな視点を育むために不可欠な英語の実践運用能力を身につけてもらうのは、単語、イデオム、英文法を組み合わせたクイズみたいな勉強癖に抜け出すために、本来ならの外国語勉強の楽しさを体感して、将来的に自分が続いていける勉強方法に探そうという意識を目標とします。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、どんな方法で英語が使えるようになるが実感と分析しながら、他人の感想も参考して、結論は演習中で自分が確認できることを重点に置く。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 英語芝居の資料を指導する</li> <li>3. 英語芝居の資料を指導する</li> <li>4. 英語芝居の資料を指導する</li> <li>5. 英語芝居の練習と課題解決</li> <li>6. 英語芝居の練習と課題解決</li> <li>7. 英語芝居の練習と課題解決</li> <li>8. 使える英語についての結論</li> <li>9. 英語苦手意識についての結論</li> <li>10. 流暢さ第一を鍛えるための意識</li> <li>11. 総合的な感想</li> <li>12. グループ発表と英語芝居の演習確認</li> <li>13. 発表会の準備</li> <li>14. 発表会前の確認</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>授業参加姿勢(60%)、成果発表会でのプレゼンテーション内容(30%)、グループ活動への貢献度(10%)を総合的に評価します。</p>								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	英語芝居の練習								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> CIRQUE DU FREAK by Darren Shan</p> <p><b>参考書：</b> English Dictionary</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	中村 弘子								
授業の概要	<p><b>キーワード：コミュニケーション重視，リンガフランカ，英語 4 技能</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 「日本人は英語が苦手」を科学する</b></p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 2023 年度の世界の英語能力指数ランキングでは日本は「低い英語能力」のグループに分類されている。本プロジェクトでは日本人の英語力の現状について学び、考え、問題点について調査・分析し、さらに改善策について考察し、成果物の発表を行う。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本プロジェクトでは、グループでリサーチした内容について各グループでクリティカルに分析することによって上記の能力の向上を図り、英語または日本語で原稿を用いず発表し、上記の各能力を各自が強化することを達成目標とする。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション・グループ分け グループワークの割り当て</li> <li>日本人の英語力について</li> <li>グループ・ワーク(1): リスニング</li> <li>グループ・ワーク(2): スピーキング</li> <li>グループ・ワーク(3): リーディング</li> <li>グループ・ワーク(4): ライティング</li> <li>質問紙の作成</li> <li>質問紙の作成</li> <li>調査結果の報告</li> <li>グループ発表準備</li> <li>グループ発表準備</li> <li>グループ発表(1)</li> <li>グループ発表(2)</li> <li>発表練習</li> <li>発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	授業での取り組み、グループワーク、グループ発表での貢献度等を総合的に評価する。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	グループ発表のための準備のほとんどは講義外になる。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書： なし</b></p> <p><b>参考書： なし</b></p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	柚洞 一央								
授業の概要	<p>キーワード： 地理的見方・考え方、現地で現象を探す</p> <p>&lt;テーマ&gt; 鳥取でグローバル社会を考える</p> <p>&lt;概要&gt; 鳥取という日本の地方都市にもグローバル化の波が押し寄せています。本プロジェクト研究では意外なグローバル化の現象をみなさんに見つけてもらいます。現地での聞き取り調査を重視しながら鳥取という地域社会の見えざる実情に迫ります。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、「知る」の向上に重きを置きます。また調査手法として地理学が得意とする現場で考える作業を重視します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地理的な見方・考え方とはなにか</li> <li>2. 地域社会で起きていることをどのように把握するのか</li> <li>3. 主体的・対話的で深い学びとは</li> <li>4. 地図で考える</li> <li>5. 仮説を立てる</li> <li>6. 仮説を立てる</li> <li>7. 仮説を立てる</li> <li>8. 仮説の共有 みんなで考える</li> <li>9. 仮説の共有 みんなで考える</li> <li>10. 困ったときは「助けて」と主張する</li> <li>11. 困ったときは「助けて」と主張する</li> <li>12. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する</li> <li>13. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する</li> <li>14. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	最終成果物の内容を中心に評価します								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	授業内での作業だけでなく各自の興味関心にあわせて独自に調査探求をすること								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p>教科書：</p> <p>参考書：</p>								

科目名	プロジェクト研究1						テーマ カテゴリ	グローバル	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	吉田 聡								
授業の概要	<p><b>キーワード： プロジェクト、情報・認識の共有、文献講読</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; ニュージーランドの算数教科書を読む</b></p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> ニュージーランドの小学校課程相当の算数教科書の原書を用いて、ニュージーランドの算数教育を考察します。著者の意図やニュージーランド算数教育の背景を読み解くこと、教師の視点からの学習指導の方法の検討などをチームごとで行い、プロジェクト、情報・認識の共有、文献講読を実践的に学びます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1~4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を高めることを目標とします。</p> <p>ここでのプロジェクト研究1では、自身の活動内容を自身で決めるなど、活動の中で主体性、思考力、協働性の3つの能力の向上を優先的に図っていきます。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1期・準備：本プロジェクトの説明、評価の説明、輪講担当割り当て</li> <li>第1期・準備：自己紹介、文献講読（統計教育、数学教育、算数授業研究）</li> <li>第1期・準備：文献講読、輪講の練習（担当教員による発表）</li> <li>第2期・輪講：各参加者が事前にニュージーランドの算数教科書を検討し、発表していきます</li> <li>第2期・輪講：前回の続き</li> <li>第2期・輪講：前回の続き</li> <li>第2期・輪講：前回の続き</li> <li>第3期・チーム活動：各チーム3~5名程度に編成します。その中でニュージーランド算数教科書を輪講していきます</li> <li>第3期・チーム活動：前回の続き</li> <li>第3期・チーム活動：前回の続き</li> <li>第3期・チーム活動：前回の続き</li> <li>第3期・チーム活動：チームごとに発表準備を行います</li> <li>第3期・チーム活動：前回の続き</li> <li>第3期・チーム活動：内部発表会</li> <li>プロジェクト研究発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>活動報告（50%）、レポート（30%）、発表（20%）</p> <p>最終成果物の完成を重視</p> <p>各回、または複数回ごとの成果を重視</p>								
講義外での学習	講義時間にチームでの打合せや議論を行うので、調査や資料作成などの個人活動は講義時間外に行うようにして下さい。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> なし。資料を適宜配布する。</p> <p><b>参考書：</b> Pearson Mathematics Level 2a~4b</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	磯野 誠								
授業の概要	<p>キーワード： マーケティング、商品開発、デザイン</p> <p>&lt;テーマ&gt; 鳥取の特産食材レシピ開発</p> <p>&lt;概要&gt; 磯野ゼミで発刊した「鳥取の野菜が生きる簡単アイデアレシピ」(2024)の延長として、さらに鳥取の特産食材を用いたレシピページを開発し、まとめる。その過程を通して、マーケティング、商品開発、デザインの基礎を学ぶ。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、特に表現力、思考力に焦点を置く。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：プロジェクトの概要</li> <li>2. マーケティングの基礎</li> <li>3. クリエイティブブリーフ作成・修正</li> <li>4. クリエイティブブリーフレビュー・確定</li> <li>5. 食材探索</li> <li>6. 食材決定</li> <li>7. レシピ案作成</li> <li>8. レシピ案レビュー 1</li> <li>9. レシピ案レビュー 2</li> <li>10. 消費者調査</li> <li>11. レシピ修正案レビュー 1</li> <li>12. レシピ修正案レビュー 2</li> <li>13. レシピ冊子全体調整</li> <li>14. プレゼンテーション準備</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	ディスカッションへの積極性(50%)、成果物のクオリティ(50%)								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	課題に取り組み、次回に提出する。								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p>教科書： 磯野ゼミ(2024)「鳥取の野菜が生きる簡単アイデアレシピ」</p> <p>参考書： 倉持・他(2019)「地域創生のための経営学入門」今井出版</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	市丸夏樹								
授業の概要	<p><b>キーワード： ソフトウェア開発、プログラミング、Ruby 言語</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; Ruby 言語でプログラミングを始めよう!</b></p> <p>&lt;概要&gt; 山陰特産のプログラミング言語として世界的に有名なプログラミング言語Rubyを題材に、協力して少人数班でのプログラム作成に取り組むことを通して、自分の頭で考え、他者と協働しながら行動することを重視し、大学で自分から学修していく態度と、そのために必要となる能力を段階的に養っていく。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは特にこれまで勉強したことがない全く新しいことについて「知る」ことを重視する。</p> <p>インターネット上の検索エンジンや、生成AIなど他者の力も借りながら、研究対象を深く知るための調査方法を学ぶ。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマ説明、イントロダクション</li> <li>2. 自己紹介、ミニレク：文献調査の方法</li> <li>3. 班分け、サブテーマ決め</li> <li>4. 研究計画・や区割り分担・スライド作成</li> <li>5. 中間発表会</li> <li>6. 班活動(1)</li> <li>7. 班活動(2)</li> <li>8. 班活動(3)</li> <li>9. 班活動(4)</li> <li>10.班活動(5)</li> <li>11.班活動(6)</li> <li>12.スライド作成</li> <li>13.発表練習(リハーサル)</li> <li>14.Web 資料作の成と公開</li> <li>15.プロ研発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>他者の力も借りながら、課題を知るための調査する方法を学ぶことができているか、それに必要な問題意識や能力が育成されているかを評価する。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p> <p>各回、または複数回ごとの成果を重視</p>								
講義外での学習	個人での作業には極力授業のない空き時間等を活用すること。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	2回目以降は毎回パソコンを持参のこと。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
教材	時間割通りの実施								
	他曜日の集合あり								
教材	<p><b>教科書：</b> <a href="https://www.ruby-lang.org/ja/documentation/quickstart/">https://www.ruby-lang.org/ja/documentation/quickstart/</a></p> <p><b>参考書：</b> <a href="https://bard.google.com/chat">https://bard.google.com/chat</a></p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	川崎 紘宗								
授業の概要	<p><b>キーワード： 解釈、脱進歩史観、構築主義</b></p> <p>&lt;テーマ&gt; 歴史上の出来事や伝承・伝説・行事の「意味」を解釈する。</p> <p>&lt;概要&gt; 伝承や伝説等は現代人から見れば非合理的かつ非科学的に見えるかもしれない。しかし、それらは当時の人にとっては合理的な思考の末に生み出された、当時の最先端の知識の集大成（いわば「科学」）でありました。では、それら伝承や伝説、さまざまな年中行事にはどのような意味が隠れているのでしょうか。また、歴史上の出来事にも何らかの「意味」が存在していますが、現在においてその正確な「意味」は見え、ただ、その出来事には、このような「意味」があるのではないかと解釈をすることをすることしかできません。</p> <p>本授業では表面からは見えない背後に隠されている「意味」の解釈を試みていただきます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、特に「知る」ことを重視する。現実の課題を解決するためには、対象についてよく理解していなければならない。他者の力も借りながら、課題を知るための調査する方法を身につけることを目標とします。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション : 研究方法の概要についての説明と事例紹介</li> <li>2.オリエンテーション : 自己紹介とチーム分け</li> <li>3.テーマの探索・調査</li> <li>4.テーマの探索・調査</li> <li>5.テーマの報告</li> <li>6.史料の探索・調査</li> <li>7.史料の探索・調査</li> <li>8.中間報告</li> <li>9.研究対象の解釈とその根拠についてのロジックを組み立てる</li> <li>10.研究対象の解釈とその根拠についてのロジックを組み立てる</li> <li>11.成果物の報告</li> <li>12.プレゼンテーション資料の作成</li> <li>13.プレゼンテーション資料の作成</li> <li>14.リハーサル</li> <li>15.発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	授業内での報告内容（10%）、最終レポート（20%）、最終成果物で評価する（70%）。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	毎回の授業でチームごとに進捗状況を報告してもらうので、その報告の準備およびチームごとに事前の打ち合わせをすること。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b></p> <p><b>参考書：</b> 西條勉 『『古事記』神話の謎を解く：かくされた裏面』、中央公論新社 ISBN: 9784121020956</p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	久保 奨								
授業の概要	<p><b>キーワード： 文献調査、輪講、グループ活動</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; ちゃんと調べてみる</b></p> <p>&lt;概要&gt; 世の中には、様々な情報が飛び交っています。中には、怪しい情報もあります。例えば、ワクチンについては、「接種が不妊症の原因になる」「接種で感染する」などと言われたりします。本プロジェクトでは、調べ方を学んだ上で、グループに分かれて自分達が気になる情報について、実際にはどうなのかを調べてみます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、調べて結論を導く過程を通じて、特に判断力や主体性を身につけることを目標とします。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：プロジェクトの説明、自己紹介</li> <li>2. 輪講の練習、気になる情報の共有</li> <li>3. 輪講 1（調べることで目指すもの）</li> <li>4. 輪講 2（雑誌記事・論文を調べる等）</li> <li>5. 輪講 3（統計を調べる等）</li> <li>6. グループ活動 1（調べるテーマ決め）</li> <li>7. グループ活動 2（テーマに係る背景の調査）</li> <li>8. グループ活動 3（テーマ自体の調査）</li> <li>9. グループ活動 4（同上）</li> <li>10. グループ活動 5（同上）</li> <li>11. グループ活動 6（調査結果の取りまとめ）</li> <li>12. グループ活動 7（発表資料の作成）</li> <li>13. 内部発表会</li> <li>14. グループ活動 8（発表会の最終準備）</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>発表会の内容（40%）、輪講での発表内容（30%）、 グループ内メンバー間の相互評価（20%）、各回での活動状況（10%）</p>								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	輪講の準備、文献調査、発表資料の作成等								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> なし</p> <p><b>参考書：</b> 宮内泰介、上田昌文「実践 自分で調べる技術」岩波書店</p>								

科目名	プロジェクト研究1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	染谷治志								
授業の概要	キーワード： 科学的分析・理解、仮説構築、仮説検証								
	<p>&lt;テーマ&gt; ○○を科学する</p> <p>&lt;概要&gt; 本プロジェクトでは、普段「なぜ」「ハテナ」と思っている身の周りの事物を観察や分析・実験を通して“科学”します。“科学する”とは、観察(よくみる) 仮説・予測(予測する) 実験(証拠を集める) 分析(結果を分析する) 結論(結論づける)という段階を踏んで物事を結論づけるアクティビティです。大谷翔平はいかにリアル二刀流を成し遂げられたのかを解明する「二刀流を科学する」、飲料容器にも応用されている折り紙の魅力に迫る「折り紙を科学する」、美味しいSobaの打ち方を極める「蕎麦打ちを科学する」、他にも「幸せを科学する」や「おしゃれを科学する」など身近な事物を科学して心を豊かにします。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性の6つの能力を身に付けることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトではチームワークによる調査研究・制作活動を体験し、(a)自分が考えていることを他人に提案する能力、(b)作業を効率よく行えるように計画して実行する能力を身に付けることを重点的な目標とする。</p>								
授業計画	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：調査研究テーマと活動目標の立案</p> <p>第3回：活動内容とスケジュールの立案</p> <p>第4回：調査研究活動(インターネット検索による調査)</p> <p>第5回：調査研究活動(図書文献による調査)</p> <p>第6回：調査研究活動(実地調査や実験)</p> <p>第7回：調査研究活動(調査・実験結果の考察)</p> <p>第8回：進捗状況フォローアップ</p> <p>第9回：調査研究フォローアップ活動(追加調査・追加実験計画の立案)</p> <p>第10回：調査研究フォローアップ活動(追加調査・追加実験)</p> <p>第11回：調査研究フォローアップ活動(調査・実験結果の再考察)</p> <p>第12回：発表準備(発表内容とストーリーの検討)</p> <p>第13回：発表準備(発表コンテンツの作成)</p> <p>第14回：発表準備(発表練習)</p> <p>第15回：発表会</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
	<p>調査研究活動に対する取組み度 50%、自発度 20%、貢献度 10%、調査研究成果 20%の配分で評価する。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p> <p>各回、または複数回ごとの成果を重視</p>								
講義外での学習	身の周りにある「なぜ? どうして?」を見過ごすことなく、それを解明する試みを積極的に実施することで、問題の発見と解決のスキルを研鑽すること。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
教材	教科書： 特になし								
	参考書： 特になし			他の曜日の集合あり					

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	竹内由佳								
授業の概要	<b>キーワード：</b> マーケティング，プロモーション，社会学 <b>&lt;テーマ&gt;</b> 帰ってきた こちら TUES TV！！ <b>&lt;概要&gt;</b> 皆さんは，環大のことは好きですか？まだ入学したばかりだとわからないですよ？でも、入学前に環大のことで、知りたかったこと、いっぱいありませんでしたか？実は...私は何年か前、オープン・キャンパス用の環大のPR 動画作成を学生さん有志と行っておりましたが...「もっと人数がいたら」「もっとアイデアがもらえたら」と...なんというか、軽く限界を感じて燃え尽きちゃいそうでした。そんな中、何度かこのプロ研で素敵なアイデアをいただきました！動画に関して、皆さんの軟体動物並みの柔軟過ぎるアイデアを募ります！どのような動画を作ったらより上手に、素敵に、正しく、環大や鳥取の魅力を多くの高校生さんやその保護者に伝えることが出来るかという、短い番組構成を考えた後に、動画に必要な絵（映像）の撮影を行っていきます！								
	到達目標	プロジェクト研究1では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。本プロジェクトでは、特に、「多様性」「思考力」「主体性」を重視します。グループワークにおいて、他の意見も入れながら（多様性）自分なりに筋道を立て（思考力）、自ら様々な情報を仕入れたうえで分析する（主体性）ことを意識してください。							
授業計画	1. ガイダンス、自己紹介、アイスブレイキング 2. マーケティングのお話&ディスカッション 3. 問題設定 グループ作り，グループ内で議論 4. 問題設定 グループ内で議論 5. 調査・撮影 6. 調査・撮影 7. 第1回目報告（どんな問題を設定したのかを報告，質疑応答） 8. 調査・撮影 9. 調査・撮影 10. 調査・撮影 11. 調査・撮影 12. 第2回目報告（設定した問題についての調査結果報告，質疑応答） 13. 発表会向けの資料作り 14. 発表会向けの資料作り 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	講義内での報告内容（50%）、成果（50%）で判断。なお、成果とは最終成果物だけでなく、それまでに使用・作成したすべての資料を指します。								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	問題を設定する際や分析する際には柔軟な考え方といろいろな分析視点が必要となるので、とにかく「こんなのいらんじゃない？」と思うような情報でも目に入れて自分の武器にするようにしてください。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<b>教科書：</b> 特になし。 <b>参考書：</b> 適宜指定します。								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	戸苅 丈仁								
授業の概要	<b>キーワード： 物理学，力学，スポーツ科学，テニス</b> <b>&lt;テーマ&gt; テニスの科学</b> <b>&lt;概要&gt;</b> 伊達公子、錦織圭、大坂なおみなどの世界レベルのテニス選手の登場により、日本の中でのテニス人気が高まっています。本プロジェクト研究では、テニスに関する研究課題について、科学的な視点から解明に取り組みます。今回のプロジェクト研究ではテニスを題材に、課題設定および実験研究に取り組む中で、「研究」のプロセスを理解してもらいます。 (EX) ・テニスラケットの形状（フレーム厚，面形状，面の大きさ）と各ショットへの影響 ・テニスラケットの重さ・バランス・スイングウェイトと各ショットへの影響								
	到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、特に下記の3点について重視します。 グループでの共同作業を効率よく行う協働性 問題点を科学的に調査・分析し解決する思考力 調査結果を的確に伝える表現力							
授業計画	<b>&lt;授業計画&gt;</b> 1. プロジェクトの概要説明、ガイダンス 2. テニスについての基礎的知識 3. 班分けおよび課題分担の決定 4～8. 実験、調査 9. 中間報告 10～13. 追加実験、追加調査、データ取りまとめ、発表資料作成 14. 発表練習 15. 発表会  ・テニスというスポーツを科学的に考えるテーマですので、特にテニスの経験者である必要はありません。 ・調査テーマ、実験計画は各班で決定してもらいます。								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	最終的な成果物で評価する								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	各班ごとの研究スケジュールによる								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<b>教科書：</b> 適宜資料配布 <b>参考書：</b> 適宜資料配布								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	西村 教子								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 生活環境、地域社会、人口減少</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> あなたのまちはどんなまちか？</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> みなさんがこれまで暮らしてきた「まち」はどんなまちでしたか？このプロジェクト研究では、みなさんの出身地を様々な視点からまちを比較して、まちの特徴や課題などを考えていきます。 授業は統計 dashboard や地域経済分析システム (RESAS) などを用いながら情報収集やデータの読み方についても学んでいきます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 主体的に取り組む姿勢と思考力を身に着けること、特に積極的にグループで研究を進めていく協働性を重視します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 人口減少社会が意味する日本や地域の社会経済に及ぼす影響</li> <li>3. まちの特徴を調べる：人口</li> <li>4. まちの特徴を調べる：産業</li> <li>5. まちの特徴を調べる：隣接地域との比較</li> <li>6. グループテーマ、グループの決定</li> <li>7. まちの調査 1</li> <li>8. まちの調査 2</li> <li>9. まちの調査 3</li> <li>10. まちの調査 4</li> <li>11. 考察・まとめ 1</li> <li>12. 考察・まとめ 2</li> <li>13. 発表会準備</li> <li>14. 発表会準備</li> <li>15. 発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>授業の参画度( 課題の取り組み、 授業時間内の発言等の参加、 グループ活動の参加)から総合的に判断する。</p>								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	<p>授業時間は進捗報告などの時間に用います。 そのため、調査やグループ活動の多くは時間外となります。</p>								
履修上の注意事項	<p><b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b> 演習授業です。必ず出席してください。(正当な理由による欠席を除く)</p>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> <b>参考書：</b></p>								

科目名	プロジェクト研究 1						テーマ カテゴリ	一般	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	山口 和宏								
授業の概要	<p><b>キーワード： 特産物 地場企業 地域活性化</b></p> <p><b>&lt;テーマ&gt; 鳥取県のお土産として何をお勧めしますか？</b></p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 観光旅行を行う際の楽しみの一つとして、お土産品を購入することが挙げられるでしょう。その中には、地元を代表する特産物や地場企業が生産している商品もあり、当該地域の活性化にも寄与すると考えられます。そこで、本プロジェクトでは鳥取県のお土産品に着目し、多くの人に勧めるべく、様々な側面から考えていきます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、鳥取県の特産物を対象としたグループ研究を行う中で特に、物事の側面にある多様な考えを理解しまとめる思考力、自らの意見を創り出す主体性、他者と協力して物事を進める協働性を身に付けることを目指します。</p>								
授業計画	<p>下記の講義計画で進めていく予定であるが、必要に応じて変更する場合もありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス（自己紹介・テーマの概要と講義の進め方の説明）</li> <li>本プロジェクトの研究内容に関するディスカッションとグループ分け</li> <li>グループにおける研究テーマの選定</li> <li>グループにおける研究計画の策定</li> <li>グループでの研究活動</li> <li>グループでの研究活動</li> <li>グループでの研究活動</li> <li>グループでの研究活動（研究・調査結果の中間とりまとめ）</li> <li>研究結果の中間発表・意見交換・今後の研究活動の打ち合わせ</li> <li>グループでの研究活動</li> <li>グループでの研究活動</li> <li>グループでの研究活動（発表会に向けた資料作成）</li> <li>発表会に向けた予行練習・質疑応答</li> <li>発表会資料の修正・Web 登録の実施</li> <li>発表会</li> </ol>								
	教員による計画・方針・意向を重視			学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	<p>ディスカッションやグループ活動への参加状況（30%）、講義内での中間発表（30%）、発表会での最終成果（40%）で評価する。</p>								
	最終成果物の完成を重視			各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	グループごとの打ち合わせや報告資料の準備、個人での情報収集や研究が必要となる。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			学内で活動					
	時間割通りの実施			他の曜日の集合あり					
教材	<p><b>教科書：</b> 特になし</p> <p><b>参考書：</b> 必要に応じて、適宜紹介する</p>								